

政策番号	21	政策分野	土地利用と都市機能配置
------	----	------	-------------

基本方針	人口減少や少子高齢化，低炭素社会実現への対応などの社会動向を見通し，都市を効率的に経営する視点を持ちながら，「保全・再生・創造」の都市づくりを基調として，地域ごとの特性を生かすための多彩で個性的，かつ秩序ある土地利用の展開や，地球環境への負荷の少ない集約的な都市機能の配置を図ることにより，さまざまな都市活動を持続的に展開することのできる都市を実現する。
------	---

担当局	都市計画局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関係する 主な分野別計画等	京都市都市計画マスタープラン，京都駅南口周辺地区まちづくり指針， 京都市商業活性化アクションプラン2011，未来・京都観光振興計画2010+5， 新・京都市南部創造まちづくり推進プラン， らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム， 職住共存地区整備ガイドプラン
---------------------	--

## 政策の評価

### 1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	24 年度	25 年度	26年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	交通拠点周辺の集客的土地利用の割合(%)	28.2	29.0	c	c	28.3	28.5	28.7	99.3%	b
2	田の字地域及び京都駅周辺における商業・業務施設の面積(百㎡)	48,084	48,167	-	-	48,167	48,084	48,167	99.8%	b
3	製造品出荷額等に占める南部地域の割合(%)	56.6	59.0	a	a	55.3	59.8	56.3	106.2%	a
4	地区計画，建築協定及び景観協定の締結数(件)	126	155	e	d	127	131	4件増	100.0%	a
5	景観・まちづくりに関する相談件数(件)	1,213	-	a	a	994	909	761	119.4%	b
				b	b					a

施策の客観指標評価		参照 ページ	評価		
			24年度	25年度	26年度
2101	便利でくらしやすい生活圏づくり(1指標)	217	c	c	b
2102	商業・業務機能が集積したにぎわいのある魅力的なまちづくり(1指標)	219	b	b	b
2103	創造を続ける南部地域のまちづくり(1指標)	221	e	d	d
2104	市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり(1指標)	223	e	d	a
2105	まちづくりを支えるしくみづくり(2指標)	225	c	b	a
(5施策平均)			d	c	b

政策の客観指標総合評価	24年度	25年度	26年度
(政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	—	—	a

### 2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		24年度	25年度	26年度
1	買物などの日常生活には，徒歩や自転車，公共交通が便利である。	b	a	a
2	田の字地域(河原町通，烏丸通，堀川通，御池通，四条通，五条通の幹線道路沿道地区)や京都駅の周辺は，にぎわいのある魅力的な地域である。	b	a	a
3	京都のまちの南部地域が発展してきている。	b	b	b
4	身近な地域が魅力的になっている。	c	c	c
5	身近な地域で，自主的なまちづくり活動が進んでいる。	c	c	c
市民生活実感調査総合評価		b	b	b

### 2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

24年度		25年度		26年度	
順位	%	順位	%	順位	%
27	4.7%	26	69.5%	26	70.5%

### 3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
<p>【客観指標】●交通拠点周辺の集客的土地利用の割合については、駅周辺に新たにホテルなどが開業し、商業・業務等の集客施設の割合が増加したことに伴い、c→b評価へと改善した。</p> <p>●田の字地域及び京都駅周辺における商業・業務施設の面積については、四条通、烏丸通、河原町通の地区計画の策定に向けた支援を行い、商業集積に寄与する地区計画が策定されたことによって、にぎわい創出のための土地活用が進んでおり、b評価となった。</p> <p>●製造品出荷額等に占める南部地域の割合については、企業立地促進助成制度の充実等により、3年連続a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●地区計画、建築協定、景観協定の締結数については、まちづくり活動の支援に継続して取り組んだ結果、各地域でのまちづくりに対する機運が高まり、地区計画が4件増(太秦安井山ノ内地区、姉小路界わい地区、河原町商店街地区、大原戸寺町地区)となり、d→a評価と改善された。</p> <p>●景観・まちづくり相談の件数については、昨年度より件数が減少し、a→b評価となったものの、景観・まちづくりセンターにおいて、シンポジウムやセミナーを開催した結果、市民のまちづくりに対する意識が高まってきており、一定の評価を得ている。</p>		25年度	B
<p>【市民の実感】●多くの市民の方々に「買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である」と実感していただいており、昨年度に引き続きa評価と高い評価で安定している。</p> <p>●田の字地域や京都駅周辺がにぎわいのある魅力的な地域であるとの市民実感は、八百一の開業や、BAL・東急ハンズ・NHK京都放送局などが建設中であることなどから、高まってきており、昨年度から引き続き、a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●京都のまちな南部地域が発展してきているとの市民実感は、京都市成長産業創造センターの開所や新しい企業の立地等を踏まえ、3年連続b評価と安定している。</p> <p>●身近な地域が魅力的になっているとの市民実感は、京都市都市計画マスタープランに基づき、職住共存地区、らくなん進都などの地域において都市計画手法の活用を含め多様な施策を総合的に推進したことにより、各地域で自主的なまちづくり活動が行われているものの、市民の実感を得るには時間がかかることから、3年連続c評価という結果となった。</p> <p>●身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいるとの市民実感は、まちづくり活動に積極的に取り組む地域が増えてきたことにより、より多くの人がまちづくり活動に参加する機会ができていたものの、全市的な広がりには至っておらず、3年連続c評価という結果となった。</p>		24年度	B
<p>【総括】●日常生活の利便性や田の字地域や京都駅周辺のにぎわいなど都市機能の配置に関しては、取組が一定進捗しており、総じて取組に見合った市民の実感を得た。</p> <p>●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>			
※田の字地域:河原町通、烏丸通、堀川通、御池通、四条通、五条通の幹線道路沿道地区			

#### 今後の方向性の検討

#### <この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価			参照ページ
		24	25	26	
2101	便利でくらしやすい生活圏づくり	B	B	A	218
2102	商業・業務機能が集積したにぎわいのある魅力的なまちづくり	B	A	A	220
2103	創造を続ける南部地域のまちづくり	D	C	C	222
2104	市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり	D	C	B	224
2105	まちづくりを支えるしくみづくり	C	C	B	226

#### <今後の方向性>

- 都市計画手法を活用し、駅周辺における商業・業務等の集客施設の割合を高めることにより、便利で暮らしやすい生活圏や、にぎわいのある魅力的な商業・業務地域を形成し、引き続き、市民の方々に「買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である」と実感していただけるよう努めていく。
- 都心部のにぎわいある魅力的なまちづくりに向けて、商業振興施策や観光振興施策とも連携を図りながら、地区計画等の都市計画手法を活用した取組により、更なるにぎわい創出に向けた土地活用に取り組む。
- 南部地域のまちづくりについて、特に、先導地区として位置付けるらくなん進都においては、企業立地促進制度や企業立地に協力する土地所有者に対する支援制度等の活用、また、油小路通沿道及び企業敷地における緑化の推進や公共交通の利便性の向上に向けた取組等を進め、更なる企業の集積を図る。
- 魅力的なまちの実現に向けて、身近な地域の魅力向上が課題となっていることから、京都市都市計画マスタープランに基づき、都市計画手法の活用を含む多様な施策を総合的に推進するとともに、地域住民に身近な区役所とも連携しながら、全市的な取組の展開を図る。
- まちづくりを支える仕組みづくりについて、自主的なまちづくり活動を更に促進する必要があることから、景観・まちづくりセンターとも連携し、まちづくりに関わる人材の育成や、まちづくり活動支援に取り組んでいく。

政策名		21	土地利用と都市機能配置					
指標名		交通拠点周辺の集客的土地利用の割合（％）						
担当部室		都市企画部		連絡先	2 2 2－3 5 0 5			
1 指標の説明								
地下鉄駅及び京都市都市計画マスタープランに位置付けのある拠点駅周辺（500m程度）エリアにおける建物延床面積合計のうち、商業・業務等の集客施設の延床面積合計の占める割合								
2 指標の意味			3 算出方法・出典等					
便利でくらしやすい生活圏づくりに向けて、交通拠点周辺の集客的土地利用の割合を示す			土地利用現況調査を基に数値を算出					
4 数値								
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠				
		28.2	29.0	原則、平成17年度の現況値28.4％を維持する。				
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値				
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度		
数値	28.3	28.5	0.2ポイント増加	28.7	原則、平成17年度の現況値28.4％を維持する。	99.3％		
	全国順位	中長期目標			備考	最新数値は前年度のデータを用いて算出するため、1年遅れとなっている。		
		数値	目標年次	達成度			根拠	
数値		28.7	27年度	99.3％			平成32年度に29％になることを目指して設定	
5 評価基準								
最新数値が			6 基準説明			7 評価結果		
a：29.0％以上			・平成32年度目標値29.0％以上をa評価			24	25	26
b：28.4％以上29.0％未満			・平成17年度現況値28.4％以上をb評価			c	c	b
c：23.9％以上28.4％未満、ないし最新数値が前年度数値を上回った場合			・市域全体の実績値19.4％（20年度）を最低値として、それ未満をe評価					
d：19.4％以上23.9％未満			・最低値と現況値の間値23.9％を境にc評価・d評価					
e：19.4％未満			・以上にかかわらず、拠点駅周辺エリアにおける商業等の集客施設の延べ床面積合計の占める割合は数箇年を経て達成していくものであるから、前年度数値を上回った場合はc評価					

指標名		田の字地域及び京都駅周辺における商業・業務施設の面積（百㎡）					
担当部室		まち再生・創造推進室		連絡先		2 2 2－3 5 0 3	
1 指標の説明							
田の字地域や京都駅周辺などの都心部の、商業・業務施設の延べ床面積							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
にぎわいあるまちづくりに向けて、中心商業・業務地区における商業・業務施設の面積の増減を示す指標			出典：土地利用現況調査資料				
4 数値							
10年後の（平成32年度）目標値		平成26年度評価値	平成32年度目標値	根拠			
		48,084	48,167	平成15年度以降で最も高い数値			
5 評価基準							
平成15年度以降で最も高い数値と比較し、 a：100%以上 b：99%以上100%未満 c：98%以上99%未満 d：97%以上98%未満 e：97%未満		・ 過去10年で最も高い数値と比較し 100%以上であればa評価 ・ 以下1%刻みでb～e評価 最高値48,167（平成23年）					
6 基準説明							
7 評価結果							
24		25		26			
-		-		b			

政策名	21	土地利用と都市機能配置		
-----	----	-------------	--	--

指標名	製造品出荷額等に占める南部地域の割合（％）				
-----	-----------------------	--	--	--	--

担当部室	まち再生・創造推進室		連絡先	2 2 2 - 3 5 0 3	
------	------------	--	-----	-----------------	--

1 指標の説明

市域全体の製造品出荷額等に占める南部地域企業の製造品出荷額等の割合

2 指標の意味

南部地域においてものづくり企業が集積していることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：工業統計調査

4 数値

10年後の（平成32年度）	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
目標値	56.6	59.0	過去10年間（平成11～20年）で最も高い数値に設定		

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年	24年		数値	根拠	達成度
数値	55.3	59.8	4.5ポイント増	56.3	平成32年時点の目標値59％を達成するため、平成20年時点の54.3％から毎年0.5％ずつ増加させる。	106.2％

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

最新数値が  
a：単年度目標値以上  
b：単年度目標値未満～平均値超  
c：平均値  
d：平均値未満～最低値超  
e：最低値以下

6 基準説明

当該指標は過去からの推移によって評価されるべきものであるため、単年度目標値以上のものをa、過去10年間の平均値以上をc、最低値以下をeとし、各基準を設定した。  
平均値 49.8％（平成11～20年）  
最低値 37.7％（平成11年）

7 評価結果

24	25	26
a	a	a

指標名	地区計画、建築協定及び景観協定の締結数（件）				
-----	------------------------	--	--	--	--

担当部室	まち再生・創造推進室		連絡先	2 2 2 - 3 5 0 3	
------	------------	--	-----	-----------------	--

1 指標の説明

地区計画、建築協定及び景観協定の締結数

2 指標の意味

地域の魅力の高まりにつながる地域まちづくり活動の活性化状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度）	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
目標値	126	155	全学区（222）で平均一つの取組を目指しており、32年度までの目標値は155件とする。		

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	127	131	4件増	4件増	平成32年度の目標達成のために当年度達成すべき数値（今後10年間で155件の締結を達成するため、年平均3.2件以上締結）	100.0％

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

前回数値と比較し、  
a：4件以上増  
b：3件増  
c：2件増  
d：1件増  
e：0件以下

6 基準説明

・単年度目標値を達成すればa評価  
・以下1件刻みでb～e評価  
※なお、協定の更新に伴い複数の地区を統合した場合、地区数が減少することになるが、協定の区域は変わらないため、地区数の減はカウントしない。

7 評価結果

24	25	26
e	d	a

政策名	21	土地利用と都市機能配置					
指標名	景観・まちづくりに関する相談件数（件）						
担当部室	まち再生・創造推進室		連絡先	2 2 2 - 3 5 0 3			
1 指標の説明							
景観・まちづくりセンターで受け付けた景観・まちづくり活動相談及び京町家なんでも相談の合計件数							
2 指標の意味							
市内各地域における地域まちづくりの機運の高まりを示す指標							
3 算出方法・出典等							
出典：事業担当課調べ							
4 数値							
10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠				
	1,213	-	-				
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値			
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度	
数値	994	909	85件減	761	平成19年度以降の年間相談件数の平均値	119.4%	
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
目標数値と比較し、 a：130%以上 b：110%以上130%未満 c：90%以上110%未満 d：70%以上90%未満 e：70%未満							
6 基準説明							
・目標値に対する達成度が100%の場合をc評価の中心と設定 ・20%刻みでa～e評価							
7 評価結果							
24	25	26					
a	a	b					